

大阪フロイデニュース

# Freude

vol. 16-26 2023.5.17.wed

5/24 (水) 18:30~  
 7合せと練習  
 5/31 (水) 18:30~  
 6/7 (水) 18:30~  
 14 (水) 18:30~

50名超え  
 教会

次回のコンサートを計画しています (●^o^●)

「基本の練習体制維持ラインが団員 40 名・団費 6000 円。演奏会は 1 年に 1 回ペース。ショートしたら協力を金をお願いする」ということで承認いただいている大阪フロイデ合唱団。ショートの場合は協力金、といいながらも 40 名を切ると基本の練習体制も維持できないので、そこが一つのライン、として覚悟を決めてスタートしていますが、ありがたいことに今回、50 名超えの団員が集まってくれました！ なので！次回も計画することができます！（みなさん、モツレク後も必ず続けてくださいね！）ということで、「次の演奏会」決定\ (◎o◎) / ！

2024年10月 住友生命いずみホール

ハイドン「太鼓のミサ (パウケン・ミサ)」 & モーツァルトの作品 (曲目未定)

ハイドン (Franz Joseph Haydn, 1732. 3. 31-1809. 5. 31) は、生涯の殆どをオーストリア エステルハーヅ家に仕え、楽長、作曲家としてだけでなく楽団員のとりまとめ、新曲の演奏家出演交渉など侯爵家の音楽全てを仕切っていました。ハイドンは 1790 年、当主の交代のタイミングで一時期侯爵家を離れますが、1794 年ニコラウス二世がエステルハーヅ家の当主となると、再びハイドンは呼び戻され、ニコラウス二世の命により、夫人のマリア・ヘルメネギルトの命名日の祝祭のために、毎年新しいミサ曲を作曲する事となりました。これが「後期六大ミサ」です。作曲年としては 1796 年「パウケン・ミサ」「ハイリッヒ・ミサ」、1798 年「ネルソン・ミサ」、1799 年「テレジア・ミサ」、1801 年「天地創造ミサ」、1802 年「ハルモニーマサ」。当時のヨーロッパはフランス革命→ナポレオン、という時代が揺れに揺れたとき。6 曲それぞれにその時々状況が反映されています。

大阪フロイデはこれまで、ネルソン、テレジア、天地創造ミサ、を演奏しました。今回はハイドンシリーズ第 4 弾。「パウケン・ミサ」は「戦時のミサ」という名前でも知っている方も多いと思います。「パウケン・ミサ (Pauken はドイツ語でティンパニ)」は、アニュス・デイでティンパニが活躍することから。「戦時のミサ」の呼称は、作曲当時オーストリア南東部に対するナポレオン軍の侵攻により、ウィーンも脅威にさらされていた時代背景から名づけられています。

モーツァルトより 24 歳年上、モーツァルト没後 18 年も長く生きたハイドン。その晩年の作品は、時代的にはロマン派にもつながる、情感豊かな美しさです。演奏会ではもう一曲、モーツァルトの明るい曲を予定しています。

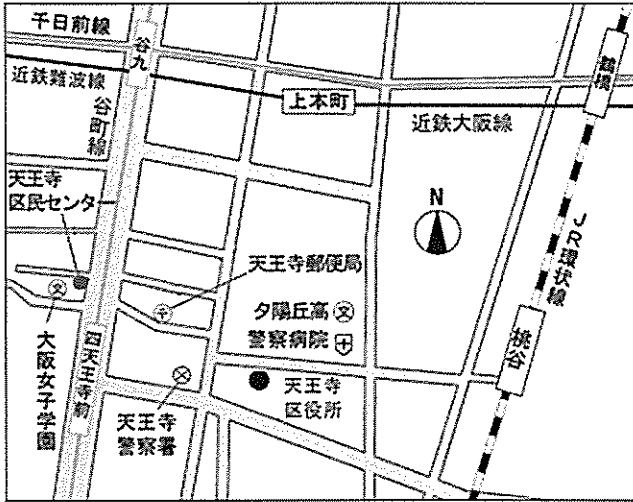
日程ですが、いずみホールが 1 年前予約確定となるため、今現在確定してはいませんが、3 つの候補日をホールに伝えています。

●10/17(木)本番&16 オケ合せ ●10/16(水)本番&14 オケ合せ ●10/10(木)本番&9 オケ合せ

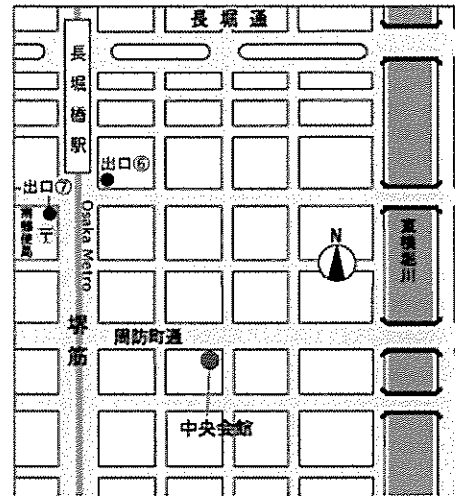
もちろん、今年の 10 月 12 日「モーツァルト レクイエム・サンクタマリアマーテルデイ & アヴェヴェルムコルプス」がステキな演奏会になることが、前提！ いよいよ練習も後半戦に入りました！ 気合入れてまいりましょう！

# 6月から広い会場での練習が入ります。使用予定の会場地図ですよ！

- 天王寺区民センター-6/21,7/26,8/23,9/20,10/4  
(地下鉄「四天王寺前夕陽ヶ丘」下車)



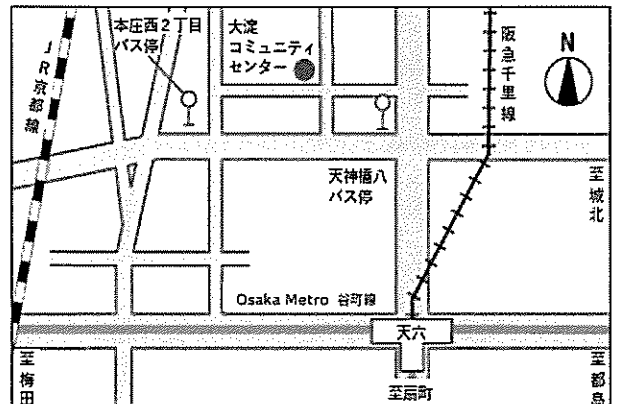
- 中央会館 (7/1,2 強化練習)  
(地下鉄「長堀橋」下車)



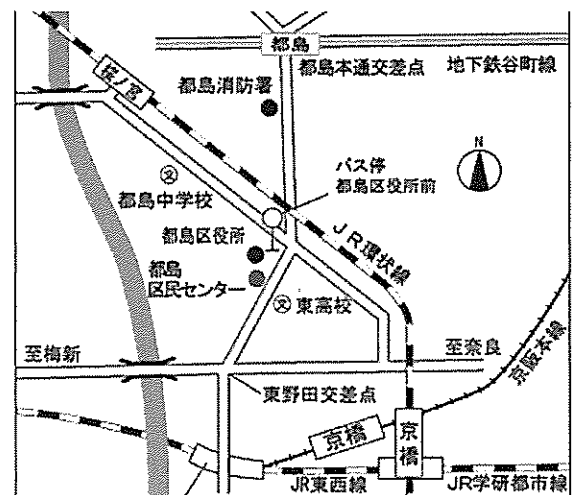
- 浪速区民センター (9/10)  
地下鉄千日前線「桜川」駅下車  
午前中、川口教会のミサでうたってから移動。  
「桜川」は「阿波座」の2つ隣の駅です。



- 大淀コミュニティセンター (9/27,10/8)  
(地下鉄「天神橋筋六丁目」下車)



- 都島区民センター (10/11 オケ合わせ)  
(JR「桜ノ宮」下車)



※最寄り駅は代表的なところを書いています。  
各練習日が近づいたら都度、ニュース掲載します。